

平成23年11月 7 日

水源環境保全・再生かながわ県民会議
座長 堀場 勇夫 殿

情報提供等ワーキンググループ
リーダー 柳川 三郎

「県民への情報提供、県民意見の集約のあり方」の検討結果
－情報提供等ワーキンググループの報告－

1 情報提供等ワーキンググループの目的

水源環境保全・再生施策に関する効果的な県民への情報提供、県民意見の集約のあり方について検討する。

2 検討の経過

区 分	年 月 日	検 討 内 容
第 1 回検討会	23年 6 月 20 日	課題の洗い出し
第 2 回検討会	7 月 25 日	課題整理と改善策の検討
中間報告の提出	8 月 1 日	第17回県民会議に中間報告を提出
第 3 回検討会	9 月 9 日	改善策の検討及び最終報告の取りまとめ
最終報告の提出	11月 7 日	第18回県民会議に最終報告を提出

3 検討内容

各事業の課題、改善案及び今後の対応方向については、別紙のとおり。

4 改善を行う事業の優先度

改善案の検討、実施にあたっては、当面、県民会議が行う情報提供の中心的事業である「県民フォーラム」及び「しずくちゃん便り」について重点的に見直すこととし、今後、各作業チームで具体的内容を詰めていくこととする。

その他の事業については、この 2 事業の見直し作業の進捗状況を踏まえ、対応を検討することとする。

5 改善に伴う事業見直し

改善策の実施にあたっては、県民会議委員及び事務局の負担を考慮することとし、業務量の増を伴う場合は、既存事業の縮小とセットで行うことを検討する。

6 県民会議と県の役割分担

当面、現行の役割分担を継続することとするが、県民会議と県の事業で重複する部分については、役割分担の再整理を行う。（地域での普及活動、メディアによる広報等）

なお、事業モニターの充実強化に伴い、県民会議委員の大幅な負担増が見込まれる場合は、県民フォーラム等の県民会議の事業について、県民会議委員が企画への参加や意見を述べる機会を担保した上で、県に業務を移管することを改めて検討する。

水源環境保全・再生かながわ県民会議
情報提供等ワーキンググループ構成員名簿

区 分	氏 名	役 職 等
関係団体	倉橋 満知子	
公 募	井伊 秀博	
〃	北村 多津一	コミュニケーションチーム
〃	木下 奈穂	
〃	久保 重明	県民フォーラムチーム
〃	小林 信雄	
〃	高橋 弘二	事業モニターチーム(水)
〃	柳川 三郎 (リーダー)	事業モニターチーム(森)

(設置要綱第5条第2項に基づくリーダーの出席依頼 (第2回、第3回出席))

有識者	萩原 なつ子	市民事業専門委員会
-----	--------	-----------

情報提供等に係る課題、改善案及び今後の対応

事業名	課題	改善案	今後の対応方向
県民フォーラム	・企画の検討に要する期間が短い。	・企画から実施までの期間を6か月程度確保する。 ・年度当初に開催時期、担当者を決定する。	○実施の方向で検討（※1） 〃
	・フォーラムの集客力が弱い、また、高齢者が参加者の大半を占めている。	・一般県民に当事者性を持たせるような内容とし、テーマは、広く設定する。 ・ターゲットにする年齢層を明確化する。 ・人が集まりやすい日時、場所を設定する。 ・会場に託児所を設置する。 ・講演者やパネリストについては、専門外で意外性のある分野からの選定も検討する。 ・駅でのポスター掲示を行う。 ・着ぐるみやキャラクターグッズを製作し、視覚に訴えるPRを行う。 ・新聞や地域のコミュニティ誌に広告を掲載する。	○実施の方向で検討 〃 〃 〃 ○大規模フォーラムの場合は実施を検討 〃 ◇実現可能性を検討（※2） 〃
	・プログラムの内容が固定化している。	・地域の特性に応じた内容で、ミニフォーラムを開催する。 (例：カフェ方式によるミニフォーラムを駅や図書館、市民まつりなどで開催)	◇実現可能性を検討 *ミニフォーラムを実施する場合は、委員及び事務局の業務量を勘案し、現行の県民フォーラムの回数減について、併せて検討する。
	・実施結果について評価を行っていない。	・県民会議に提出しているフォーラム結果報告の取りまとめにあたり、担当委員の評価欄を加える。	○実施の方向で検討
	・フォーラム意見を施策に反映させる仕組みができていない。	—	◎既に対応済み（フォーラム意見報告書の中で、施策への反映についての要望事項を明記している。）
しずくちゃん便り	・PR効果の高い配布先について検討すべきである。	・配布先については、より県民の目に多く触れる施設等を選定するなどの見直しを行うとともに、発行部数についても併せて見直しを行う。	○今後、公共施設を中心に具体的な配布先を検討
	・デザイン、紙面の内容充実について、さらに検討の余地がある。	・デザインや紙面の公募を行う。 ・掲載記事のバラエティー化、紙面の増を行う。 ・学生リポーターを公募するなど、一般県民をプロセスに取り込み、内容に広がりを持たせる。 ・プロボノ（各分野の専門家が、職業上持っている知識・スキルや経験を活かして社会貢献するボランティア活動）の手法を取り入れる。 ・水源環境をアピールするタイトルの設定、アンケート調査などを実施する。	◇実現可能性を検討 〃 〃 〃
事業モニター	・一般県民が参加する現地見学会について、県民会議の関わり方を整理する必要がある。	・一般県民が参加する現地見学会は、県主導で実施することとし、県民会議が行う事業モニターとは別個に実施する。	□左記のとおり県に要望

※1 「○実施の方向で検討」は、可能なものから速やかに実施する方向で検討する。
 ※2 「◇実現可能性を検討」は、今後、各作業チームが、費用対効果、県民会議委員及び事務局の業務量等を踏まえ、実施の可否を検討する。

事業名	課題	改善案	今後の対応方向
市民事業支援制度	<ul style="list-style-type: none"> ・団体同士の交流をさらに深める必要がある。 ・一般県民にもっとPRする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民団体の活動現場への見学会を行うとともに、一般県民への参加を呼びかける。 	□市民事業専門委員会での検討を要望
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・上記以外で効果的な情報提供を検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若年層への普及啓発を図るため、学校への広報を推進する。 (広報用DVDの活用、若年層向けDVDの作成、小冊子の発行、学校林などの体験教育の場の充実) 	◇実現可能性を検討
		<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な広報を行うため、メディアの活用について検討する。 (テレビ、ラジオ、コミュニティ誌、ツイッターなど) 	〃
		<ul style="list-style-type: none"> ・県のホームページのアクセス件数を増やす方策を検討する。 	〃
		<ul style="list-style-type: none"> ・一般県民への普及啓発を兼ねたアンケートによる意識調査、電話による世論調査を実施する。 	〃
		<ul style="list-style-type: none"> ・県民会議の関係団体委員から森林整備技術、河川整備技術、関係団体活動情報等に係る情報を発信する。 	〃
		<ul style="list-style-type: none"> ・県民会議の有識者委員から森林づくりのあり方、河川整備のあり方等に係る情報を発信する。 	〃
		<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動に係る費用対効果について、専門家、有識者から助言をもらう。 	〃